

製品名: シナプトタグミン XI ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab18498

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	SYT11
別名	SYT11; KIAA0080; Synaptotagmin-11; Synaptotagmin XI; SytXI
遺伝子 ID	23208.0
SwissProt ID	Q9BT88
免疫原	抗血清はヒト SYT11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

背景

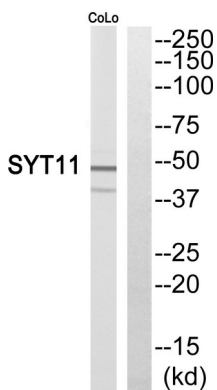
シナプトタグミン 11(SYT11) ホモサピエンス この遺伝子はシナプトタグミン遺伝子ファミリーに属し、カルシウムセンサーとして知られ、シナプス伝達におけるカルシウム依存的な膜輸送制御を媒介する他のファミリーメンバーと同様のタンパク質をコードしま

す。コードされているタンパク質は、ユビキチン E3 リガーゼであるパーキンの基質でもあります。この遺伝子は以前はシナプトタグミン XII と呼ばれていましたが、マウスおよびラットの公式命名法と一致するように、シナプトタグミン XI に改名されました。[RefSeq 提供、2010 年 4 月]、補因子: サブユニットあたり 3 個のカルシウムイオンを結合します。イオンは C2 ドメインに結合している。機能: Ca(2+)およびリン脂質が C2 ドメインに結合することで、分泌小胞の Ca(2+)依存性エキソサイトーシスに参与する可能性がある。あるいは、小胞輸送およびエキソサイトーシスの過程において Ca(2+)センサーとして機能する可能性がある。PTM: ユビキチン化され、プロテアソーム複合体に標的化されて分解される。類似性: シナプトタグミンファミリーに属する。類似性: 2 つの C2 ドメインを含む。細胞内局在: 黒質の神経細胞体および神経突起に認められる。散発性パーキンソン病患者の脳では、レビー小体の中心核に認められる。サブユニット: ホモ二量体。ヘテロ二量体を形成することもできる (類似性による)。PARK2 と相互作用する。

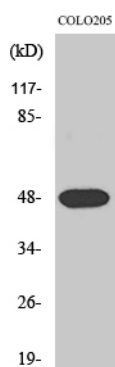
研究分野

神経科学; 神経伝達; 分泌小胞

画像データ



SYT11 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは SYT11 ペプチドでブロッキングされている。



シナプトタグミン XI ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析